

全日本トレイル0に向けて

有力選手に聞く / 全日本トレイル0 大会役員からのメッセージ

田中 博

我らいかに戦うか、全日本トレイル0に向けて有力選手に聞く

2010年4月17日 東京都
全日本トレイルオリエンテーリング大会

注目の決戦に向けて

2011年4月17日(日)に開催の全日本トレイル0選手権大会の優勝者は8月開催の世界選手権大会の日本代表に内定します。

過去5回の全日本トレイル0では、田中淳一が1位と2位山口尚宏が1位と3位になっているが、あとは、毎回違う名前が3位までに並び、いかに実力が伯仲しているか、その激戦振りがうかがい知れます。今年は誰が、日本一の座に着き、世界選手権日本代表の椅子を獲得するか?注目の戦いは東京都民の水がめ、狭山湖畔に静かで熱い戦いが、繰り広げられます。以下、過去に全日本トレイル0で、3位までに入った有力選手にアンケート方式で、この戦いに挑む姿勢を聞いてみました。

世界選手権大会で、3位の木村 杉本 4位の田代 6位の久保 山口尚宏 伸び盛りの若手 山口拓也と伴。ベテランの鈴木、田中、こう書いて見て、まったく誰が優勝してもおかしくない、又、ここに出ていない選手も、虎視眈眈優勝を狙っています。

Pクラスは木島が5連覇と群を抜いており 今年も優位は動かない情勢です。木島を脅かす新鋭の台頭が待たれます。注目の戦いは、いよいよ2011年4月17日におこなわれます。

木島英登



(Pクラス 1973年生) (競技歴11年)
トレイル0の魅力: 自然を体感できる

から
大会で心がけていること: 楽しむこと
得意なコントロール: 間、フェンス
苦手なコントロール: 沢、特徴物からの方角
思い出に残る大会:
第一回世界選手権大会(スウェーデン)
全日本トレイル0に向けて: 楽しみます。

大久保祐介



(1974年生 ES 関東 歴5年)
トレイル0の魅力: 時間をかけて考えることができること。
大会で心がけていること: 時間配分をすること、複数のコントロールで同じ回答が連続しても気にしない。
得意なコントロール: 正解なしのコントロール(区別がはっきりするから)
苦手なコントロール: 歩測が必要なコントロール
思い出に残る大会: 2007年の全日本大会(東京2日間)
全日本トレイル0に向けて: 優勝できるよう高得点を狙いたい。
ライバルは?: 全員

山口尚宏



(1976年生 入間市 OLC) (競技歴10年)
トレイル0の魅力: 長時間、地図読みに集中できる
大会で心がけていること: あせらない。

1 コントロールあたりの時間配分を確実に。
・競技を楽しむ。解答が違っていても割り切れるものは割り切る。
・運営者(特にプランナー)の感謝の心を忘れない
得意なコントロール: 思いつかない
苦手なコントロール: 現地にある特徴物で、地図表記があるものと地図表記がないものがあるを利用したコントロール(例: かけの高さで、高さ1.0m以下のものは、地図に書いていない)
思い出に残る大会: 2006年?長崎の大村大会(車椅子で回らせて頂き、良い経験に)・2008年チェコの世界選手権(遠くまで見通せる城跡の庭園&ゴルフ場)
全日本トレイル0に向けて: 全日本が毎年あることに感謝し、楽しみます
ライバルは?: まずは国内。上位者の皆さん全員。

木村治雄



(1967生 入間市 OLC) (競技歴5年)
トレイル0の魅力: 地形図と深く向き合える
大会で心がけていること: 立入禁止区域に入らないよう注意する。
得意なコントロール: 見通しのよいところで、鍵となる2点間を結んで正解位置を導くコントロール
苦手なコントロール: 横長に並んだ尾根上コントロール
思い出に残る大会: 2010年ヨーロッパ選手権(スウェーデン・ボルナス)
全日本トレイル0に向けて: 各大会で試行をしたプレースタイルを集約して臨みたい
ライバルは?: 田代雅之選手、アンティ・ラサネン選手

鈴木則弘

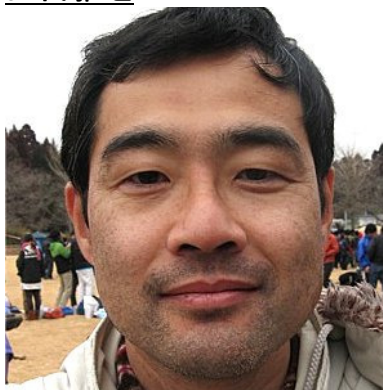


(1957 生 多摩 OL) (競技歴 7 年)
トレイル 0 の魅力：地図読みとコースプランナーとの心理戦が楽しめる。
大会で心がけていること：自分の気持ちを落ち着かせること 導いた答えの再確認をすること
得意なコントロール：等高線を読む(地形を読む)コントロール
苦手なコントロール：タイムコントロール全般
思い出に残る大会：2010 年スウェーデンでのユーロ選手権 2 日目の団体戦で 3 人満点で北欧勢を驚かす事が出来た
全日本トレイル 0 に向けて：全問正解を目指したい
ライバルは？：戦いの相手はコースプランナーであり、自分です

森長三

(1973 年生 長崎県トレイル 0 協会) (競技歴 1 年)
トレイル 0 の魅力：自分の力配分で競技ができる。実力がわかり易い、疲れを少なくでき健康的
大会で心がけていること：歩行困難のハンディがあります、転倒しないよう、石ころや突起物には非常に注意し競技時間配分に心がけたい
得意なコントロール：こぶ。尾根
苦手なコントロール：等高線を使った距離設定や遠い場所のみきわめがうまくいかない
思い出に残る大会：2010 年スウェーデンボルナス大会。起伏の少ない片道コースで同じコントロールの共用、範囲をテープで仕切り、DP の位置の変化で回答が変わる設定でした。
全日本トレイル 0 に向けて：2 年生になるので、正答率を 70%以上にしたい。タイムコントロールは落ち着いて判断
ライバルは？：日本で TOP の P クラス木島氏と E クラスの木村氏、自分。

田代雅之



(1966 生 競技歴 6 年半)
トレイル 0 の魅力：パズルを解いているみたいで、解法を見つけるのが(見つけることができるのが)楽しい(嬉しい)。
大会で心がけていること：今この大会を落とすと、日本のトップレベルに続けられないということを常に意識して、妥協することなく全力で闘うことを忘れないようにすること。
得意なコントロール：直線を利用した解法を求める課題。2 特徴物間の線分上にあるとか、何かの線の延長上にあるとか、その線よりどちら側にあるフラッグ群から選べば良いとか。
苦手なコントロール：目測を必要とする課題。TC も苦手な方かな
思い出に残る大会：2004 年の大高緑地での大会(確か、フット 0 のパークワールドツアーと併設だったやつ)。成績はさんざんだったけど、正解表に記載の解法が合理的に思えて納得して、面白そうだなと思った。
全日本トレイル 0 に向けて：勝ちたいですね。ここで負けると、世界への挑戦をまた 1 年待たなくちゃならない。
ライバルは？：木村治雄。2007 年の代表後、一時期調子を落としたのに、その後ずっと安定している。強くなるために努力していることが感じられるし、目指すべき選手像だと思っている。

田中徹



(1958 生 京葉 OLC) (競技歴 8 年)
トレイル 0 の魅力：0-MAP が好きだから。地図読みの力を試されるから

大会で心がけていること：総合的にコントロールの設置を見てゆくこと、セッターが示した課題を読み取ること勝つことにとらわれるとろくなことない。
得意なコントロール：そのレースによるのでヒトコトではいえませんね・・・。
苦手なコントロール：好きなコントロールと同じで、これといったパターンはないような・・・

思い出に残る大会：初めてのトレイル 0 競技だった WOC1000 日前イベント。この時に現トレイル 0 協会会長の田○博氏に声をかけられなければたぶんこの競技をやらなかったと思う。
全日本トレイル 0 に向けて：まあ、漠然といつかは一度くらい日本チャンピオンと思っていた目標を昨年達成したので、今年は自然体で楽しくやればいいのか。あとは大会後の反省会(?)で仲間と酒でも飲めれば満足です。
ライバルは？：うーん。同じクラスに出場している皆さんすべて。トップでもビリでもおかしくないくらいこの競技は恐ろしい!

山口拓也



(1984 年生 浜松 OLC) (競技歴 7 年)
トレイル 0 の魅力：競技面では地図と現地をじっくり見比べ、照合する楽しさ。競技面以外では、トレイル 0 を通じた・・・地域クラブともちょっと違う・・・人のつながりがあること。
大会で心がけていること：解答を導くために必要な作業を確実に、着々とこなすこと。
得意なコントロール：特徴物が多くあり、地図と現地を一つ一つ照合させて解答を導くコントロール
苦手なコントロール：絶対的距離感を課題とする、直線状にフラッグが並んだコントロール
思い出に残る大会：2005 年秋インカレ・・・優勝を目標と掲げ、初めて優勝した大会。2008 年世界選手権・・・日本代表として出た大会。世界一を決める舞台でも自分の実力がある程度通用するという手ごたえをつかんだ。
全日本トレイル 0 に向けて：今シーズン(22 年度)出場した 3 大会(非公認含む)は、すべて満点を取れているので、

ポイントを落とさないよう自分のパフォーマンスに集中したい。
ライバルは？：ひみつ。でも、けっこうたくさんいます。

伴 毅



(1989年生 京大 OLC) (競技歴6年)
トレイル0の魅力：地図を見て考え正解を導くのが楽しい世代を超えて競い合うことができる
大会で心がけていること：素朴に考えること 集中力を切らさないこと
得意なコントロール：考えることを要求するコントロール
苦手なコントロール：距離目測
思い出に残る大会：第二回全日本トレイル 2005WT0C
全日本トレイル0に向けて：全問正解
ライバルは？：山口拓也さん

実行委員長あいさつ

全日本トレイルオリエンテーリング大会実行委員長 高橋 厚

4月17日に平成22年度の全日本トレイル0選手権大会兼多摩OL創立40周年記念大会が東京の郊外で開催されます。全日本選手権としては第1回大会が平成17年に埼玉県で開催されてから、これが第6回になります。

振り返ってみますと、私はこれら6回の大会すべての運営にコース設定者、競技責任者、実行委員長、裁定委員(兼競技者)あるいは大会コントローラとして関わってきました。それだけに全日本選手権には特別な思い入れがあります。

どの役割にあってもいつも心掛けてきたのは、日本における最高のトレイル0大会にふさわしい技術的にしっかりとしたハイレベルの競技会にしようということでした。トレイル0の競技は、コースプランナーと競技者との戦いです。コースプランナーがコントロールに巧妙に埋め込んだ秘密の宝石(正解)を、競技者が知識、経験、勘、

判断力などの道具を最大に駆使して限られた時間内にいかにして取り出すか、一対一の丁々発止の戦いといっているでしょう。

エリート競技者に対していつも感じるのは、全日本選手権への実に真剣な取り組みです。特にエリートの中の上位者にとっては、日本選手権者という栄誉はもちろんですが、世界選手権の日本代表という大きな目標があるからでしょう。その真摯な取り組み、気合いの入れようには圧倒される思いです。このことがまた運営者全員に良い大会にしようというモチベーションにもなっています。

日本のエリート選手のレベルは、これまでに世界選手権でメダルを2個ゲットしていることから分かるように、トップとまでは言えないにしてもかなりのハイレベルにあります。このようなレベルの競技者を相手にしたコースを設定するためには、正確な地図、精緻なコントロール(フラッグ)の設置が不可欠です。私は、地図調査は測量的に正確に行うとともに、地図作成とコントロールフラッグ設置に当たっては、必要なところでは10cmの精度で行うよう、コース設定講習会などで指導してきました。精度10cmで地図が作られ、フラッグが設置されていれば、精度の点で苦情や提訴が出されることはまずありませんし、競技者にとっても正確さについて違和感なく競技をやっているだけのものと思います。

良いコース、良いコントロールはなんにも精度だけで決まるものではありませんが、正確さがおろそかになるとたちまち苦情や提訴になって跳ね返ってきます。精度がコース設定の基本であり、根本の問題であることは間違いないところです。

4月の第6回全日本選手権では、コース設定について日本で最高の技術を持つ児玉拓さん(多摩OL)がコースプランナーを務めます。児玉さんは第4回の全日本選手権大会2日目のコースプランナーとして、Eコースにもかかわらず「正解なしコントロール」を設けずに立派なコースを組んだコースプランナーです。コースの終盤に差し掛かってからそこまで「正解なし」がないことに気づき、無理に「正解なし」の回答を作った失敗した競技者もいた、というエピソードもあります。また一方では素直な正統派的なコースを組むとの評価もある方です。どのようなコースになるか、期待していただきたいと思います。

(高橋 厚)

コースプランナーとして

児玉 拓

第4回大会でもコース・プランナーでしたが、1回空けてまたです。元々は多摩OL大会としてやるつもりだったので。 (そういえば、フットの第1回全日本大会も、多摩OL大会のために調査していたところが、全日本に取って代わり、必然的にコース・プランナーの一員になってしまいました。)

普通の大会と思い、どこかのクラブで開催しなければならないと必然的な気持ちから始めたのだったが、全日本となるとちょっと違います。「この前やったばかりじゃないか。またかよ。」と愚痴を言っても始まらない。やるしかありません。

フットOLとしては何回も使用された公園です。自然の地形も結構残っているので変化に富んだコースが組めそうです。それだけに調査も大変ですが。

元々はJsomで作られた地図ですが、部分的にJssomになっています。全日本大会となると統一が必要でしょうから、近年の流れであるJssomにすることになりました。道幅を全箇所調べるところから始まります。コースを組み始めると、主要の道の曲がり具合も正確でないのが気にかかり、修正にかかります。

いずれにしろ完璧な地図を作るのは不可能です。オリエンティアが地図を読みやすくするためにわざと位置をずらすこともあります。A地点から見るとaだが、B地点からだとはcになるということもあります。地図の精度の見極めやプランナーがどこを基準にして設定したかの見極めも大切です。

以前にそのプランナーがどのようなコースを組んだかも参考になるでしょう。と言っても、第4回の2日目の時のような強烈な印象のコース(「正解なし」がない)は組めないでしょう。と言いつつ裏をかくことも好きですが。

いずれにしろ今回はトレイルの質が違います。バラエティーに富んだ設定ができることです。

当然Eコースにふさわしいコントロールを考えますが、中には簡単なものも入れて変化をつけようと思っています。第5回の時、Nクラス用のコントロールではないかと思われたところでも100%正解とはいかなかったのが参考にはなります。

今回こそは、全問正解者が出ることを、また一人だけであることを念じています。それでは、選手の皆さん頑張ってください。そして、E権を持っている人は、数年に1回は大会を開催していきましょう。

(児玉 拓)